

モスクワ日本人学校に勤務し始めて、6ヶ月。オンラインでスタートした勤務は時差の関係で11時から始まる。11時と言っても、ひとりで教材研究する時間であり、実際に職員朝礼が始まるのは14時。午前中の授業が終わるのが19時。今までの勤務から考えると、半分の勤務時間となる。

しかし、初めて利用するロイロノートはわからないことだらけ。すぐに声をかけられる同僚もいない。何気ない質問を、わざわざメールでやりとりするのも気が引ける。よっぽどのことがない限り、一人で試行錯誤する毎日が続いた。それでも何日かたつと、ZOOMを立ち上げ、ロイロを板書やノートの代わりに使用し、デジタル教科書を使って授業する形式にも慣れてきた。2年次、3年次の先生方の苦労は計り知れないが、私ごとで言えば、この1学期間のオンライン授業は大変勉強になった。ここまで追い込まれなければ、おそらく慣れるのにはもっと時間がかかったことだろう。

4月末に1週間ロシアに渡ることができたことは大きかった。画面越しの子供たちの素顔に触れることができた。会ってみると意外に小さい子供たち。あどけない表情に愛おしさが募る。歓迎の会の中で、校長先生の「待ちに待っていた先生方が画面から飛び出してくださいました。」と子供たちに話される様子は心底嬉しそうで、胸が熱くなり、思わず涙があふれた。目の前の子供たちの純粋なまなざしが喜びを隠しきれないでいる。本当に来れてよかった。

夏休みも半ばを過ぎたころ、突然のミーティングの知らせ。2学期にもまた出張することができるという話かと思いきや、まさかまさかのモスクワ赴任が定の知らせ。思わず、心の中でガツツポーズをとる。しかし、あとで聞いた話だが、3年次の先生方は素直に喜べなかつた人や今更?ととまどいを隠せない人が多かったそうだ。私は幸運だった。オンラインでロイロに慣れ、9月から対面授業が始まることとなった。

実際に渡航が決まるまでは、気が気ではなかった。このロシアの情勢である。いつ、渡航禁止となるかわからない。ビザもなかなか下りない。荷物は23kgまでを3個まで。お金は、住宅手当や在勤手当が出るまでの3か月相当、現金で生活しなければならない。敷金、礼金2か月分の立て替えと家賃2か月分は15000米ドルで、日本円にすると220万円ほどになる。それに加え、生活費1か月10万円相当と考えると、3か月分で30万円。私は余裕をもって2万ドル（300万円）を換金して持っていくことにした。

荷物は、スーツケース大を2つ、段ボール箱大を2つに決め、向こうで買えないもの、愛着のある品、仕事の道具、教科書諸々を何度も入れたり出したりし、重さの制限ぎりぎりに詰めていった。荷物1個オーバーで超過料金3万5000円ほど払った。

段ボール箱は新しいものをホームセンターで購入したが、クロネコヤマトの段ボール箱が一番丈夫そうだ。ほとんどの箱は荷物にもみくちゃにされ、崩れかかっていたが、クロネコヤマトで購入したという段ボール箱はしっかりと原型を保っていた。

赴任して、はや1か月半。聞いてはいたものの大使や企業の方々、保護者の方々の力添えがあり、校長が文科省外務省の方々との話し合いを積み重ね、ようやくつかみ取った赴任であったことをひしと感じた。有難かった。私たちがこの思いに応えるには、質の高い授業を子供たちに受けさせることにほかならない。

半月もしないうちに、自転車を購入。大使館の方や在露企業の方々主催の「在莫チャリ班」に参加させてもらい、毎週のようにモスクワ川沿いを自転車で走り回っている。ロシア語を一日も早く習得し、モスクワで現地の教育の在り方やモスクワの文化を吸収し、帰国した際にはモスクワで培った経験を日本の教育の一助とすべく努力していきたいと思っている。

もうすぐ、長いロシアの冬がやってくるが、十勝に10年以上住んでいる私にとって、ロシアの冬はそれほど恐ろしくない。10月中旬に初雪が降ったが、雪が積もるまでまだしばらくは、自転車で落ち葉の上を走り抜けられそうだ。